

# 「準ずる教育課程」 高等部

## 高等部「総合的な学習の時間（道徳を学ぶ時間）」学習指導案

1 題材名 感謝・思いやり～「ありがとうを1日に100回言おう」を読んで～

2 題材設定の理由

本学級は、3年生2名（男子1名、女子1名）、2年生4名（男子3名・女子1名）、1年生2名（男子1名・女子1名）の3学年8名で構成されている。日常の移動は車椅子や電動車椅子を操作し、移動したり、独歩で移動したりしている。学習面としては、準ずる教育である生徒が5名、下学年対応の生徒が3名いる。コミュニケーション面では、全員が日常会話をおおむね理解でき、話すことができるが、声の大きさや滑舌、発音などに多少の困難がある生徒、自己肯定感が低く、発言が消極的な生徒、自分の意見を積極的に発言する生徒がおり、実態が様々である。

これまでに本学級では、HRや総合的な学習の時間において、「思いやりをもつ」「目上の人をうやまう」「感謝の気持ちをもつ」など、卒業後に向けて身につけてほしいことについて、テーマを設定し、4回の授業を展開してきた。今回の題材では、「感謝の気持ちを伝える大切さ」をテーマにしたいと考えている。なぜなら、本学級の生徒は、学校生活の中で、友だちや教師に支援をお願いすることがあるが、支援をしてもらった人に、自然とお礼の気持ちを言葉で伝えている生徒は、ごく少数である。支援してもらうことを当たり前に思ったり、つい頼りがちになってしまったりして、なかなか感謝の気持ちが言葉として出てこないのである。

授業では、「ありがとう、1日に100回」という新聞の記事をもとに、これまでの生活について振り返ったり、友だちの考えを聞いたりしながら、生徒自身の考えを深めていきたいと考える。

学習能力や、コミュニケーション能力の実態が多様な生徒たちが一緒に学習する中で、一人ひとりが自分の考えを伝えあえるように、発問をする際には、伝えたい内容を明確にし、端的に伝えるようにする。また、学習のテーマや、生徒の発言は板書をする中で、生徒全員で共有するようにしていく。そして、意見交換の場面では、生徒のなにげない発言も丁寧に受け止め、他の生徒にも投げかけることで、話題を広め、理解を深めていきたい。

3 題材の目標

「感謝」や「思いやり」について学習することで、日常生活において、相手を思いやったり、感謝の気持ちを伝えたりする大切さに気付く。

4 題材の指導計画（全5時間 本時5/5）

時間	学習内容
1時間目	「世界が100人の村だったら」をテーマに、世界には様々な困難に向かい合っている人々がいることを知り、毎日を幸せに生きていることに、感謝の気持ちをもつことの大切さを学ぶ。
2時間目	「人に支援をお願いするとき」をテーマに、普段の生活を振り返ったり、目上の人と話すときに気を付けることを発表しあったりする。目上の人を敬い、相手を思いやることの大切さを学ぶ。
3時間目	「友達とのかかわりかた」をテーマに、教師による寸劇を見ながら、友人とのかかわり方についての意見を発表しあう。身近な仲間にも、思いやりをもつことの大切さを学ぶ。
4時間目	「家族にまつわる三行詩」を読み、共感したものを選び、感想を書いたり、自分で三行詩を作ったりすることで、家族への思いを表現する。
5時間目	新聞記事「ありがとうを1日に100回言おう」を読んで、身の回りにたくさんの「ありがとう」があることを知るとともに、感謝の気持ちをもつことの大切さについて学ぶ

5 本時の授業

(1) 本時の目標

- ・新聞記事を読んだり、友だちの考えを聞いたりして、気づいたことや、自分の考えを積極的に発言する。
- ・「ありがとう」を言うこと、感謝の気持ちを持つことの大切さに気付く。

(2) 展開

時配	学習活動	指導上の留意点	備考
5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○挨拶をする。</li> <li>〈導入〉</li> <li>○今日の学習内容を聞く</li> <li>○学習のキーワードとなる、「○○○ ○○」に入る5文字のひらがなを考え、発表する。</li> <li>○学習のキーワードを知る。 キーワード→「ありがとう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日直に、挨拶をするよう促す。</li> <li>・前回の授業を振り返りながら、今日の学習のキーワードについて触れる。「○○○○○」の中に入るひらがなについて自由に発言するよう促す。</li> <li>※予想される発言：おもしろい、ありがとう</li> <li>・教師は、正解を発表した後、学習のテーマを提示する。</li> </ul>	学習のテーマを記載した紙
<b>学習テーマ「ありがとう」～1日に100回言おう～</b>			
30分	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈展開〉</li> <li>○教師から、新聞記事とワークシートを受け取る。</li> <li>○新聞記事について、教師が読むのを聞く。</li> <li>○教師の発問に対して、自分の考えを発表する。普段「ありがとう」を使っている場面との違いに気付く。</li> <li>○自分の普段の生活について振り返る。</li> <li>○ワークシートに自分なりの考えを記入する。</li> <li>○自分の考えを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師は、新聞記事とワークシートを配布する。</li> <li>・教師は新聞記事を読む。生徒たちが聞き取りやすいように大きくはっきりと読むようにする。</li> <li>・「筆者は、何に対して感謝の気持ちを伝えていますか。」と発問する。何名かの生徒に発表してもらおう。普段「ありがとう」を使っている場面との違いがあることを伝える。</li> <li>※予想される発問：モノ、植物、空、太陽、鉛筆、靴等</li> <li>・「普段、友だちや、教師、家族に助けてもらったときに、感謝の気持ちを伝えていますか。」ということを発問する。</li> <li>・ワークシートについて記入するよう促す。友だちと相談せずに自分の考えを書くよう言葉をかける。</li> <li>・発表したい生徒は挙手をするよう促し、何名かの生徒に発表してもらおう。生徒の発言したことは、板書し、ほかの生徒もわかるようにする。</li> <li>※予想される発言：友だちに助けられたとき、トイレに行ったとき、</li> <li>・新聞記事で分かったことをもとに、小さなことにでも感謝の気持ちを持ち、伝えていくことが大切ということを生徒たちに伝える。</li> </ul>	ワークシート 新聞記事
15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈まとめ〉</li> <li>○授業で分かったこと、感想などをワークシートに記入する。</li> <li>○発表する。</li> <li>○挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに記入するよう促す。</li> <li>・生徒が書き終わったら、何名かの生徒に発表をしてもらおう。発言したことは板書するようにし、ほかの生徒にもわかるようにする。</li> <li>・日直に挨拶をするよう促す。</li> </ul>	

【ワークシート】

あなたは昨日、何回、どんな時に「ありがとう」を言いましたか？

(            ) 回



授業で分かったこと・感想を書きましょう

## 高等部 総合生活科 1年 道徳学習指導案（略案）

### 1 主題名 自己を確立する

資料：『明日への扉』（高等学校道徳読み物教材集）千葉県教育委員会  
「やってやれないことはない。やらずにできるわけではない」

### 2 主題設定の理由

本校高等部では本年度から第1学年に「道徳」を学ぶ時間を導入し、特別活動で24時間、総合的な学習の時間で11時間を教育課程に位置づけて実施している。本学級は、男子4名で構成されている。1名は普通中学校から、3名は中学部から一緒に、同じ寄宿舎生である。4名共に弱視生徒で、一般就労を目標とし、同じ作業班学習、同じ部活動等、一緒に活動することが多い。年相応の学力や思考・判断力等、不足している部分も多いが、明るく素直で何事にも積極的に取り組んでいる。

しかし、進路選択に関しては1年生の前期ということもあるが、一般就労、福祉就労、訓練施設、進学を含め視覚障害を有した選択としての考え方が伴っていない。例えばAさんは、特定のプロ野球球団に関わる仕事に就きたいという、あこがれだけの漠然とした内容である。

そこで、人間としてよりよく生きていくためには、安易な思いつきやあこがれでなく「より高い目標」を立てて努力して行く必要がある。その上でかけがえのない自分が、視覚障害を有するという困難をも含めて、挫折や失敗を乗り越える強い精神力や意志力が求められることを理解させたい。そのために、県教委作成の読み物教材集『明日への扉』を活用し、進路選択を通じた自己実現を目指して本主題を設定した。

### 3 主題の目標

- (1) 自分の将来や生き方について考えることができる。
- (2) 目標に向けて努力することの大切さがわかる。

### 4 本時の指導（5時間目／11時間）

#### (1) 目標

- ① ハンディを背負っても、前向きに生きることの尊さがわかる。
- ② 不得意や苦手なことを、克服しようと努力することの大切さがわかる。

#### (2) 展開

時配	学習内容と活動	指導及び支援上の留意点	備考
10	○導入 ・ 剣道について概要を知る。 ・ 隻腕(せきわん)の意味を聞く。	・ 実演を通して理解を深める。 ・ 障害による日常生活の不便さを共有できるように支援する。	竹刀
25	○展開 【教材を読む】 ・ 資料「隻腕の剣士」を読む。	・ 静粛な雰囲気の中で読むことを伝える。	資料

	<p>【自分の考えを持つ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高宮さんが教師を志した理由を考える。</li> </ul> <p>発問①</p> <p>「高宮さんが片腕で、剣道の大会で活躍したことをどう思いますか」</p> <p>発問②</p> <p>「高宮さんは職業として教師を志した理由は何だと思えますか」</p> <p>【考えを伝え合う】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高宮さんの言葉をどう思うか考えて発表する</li> </ul> <p>発問③</p> <p>「やってやれないことはない、やらずにできるわけがない。の言葉を、どう思いますか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず自分の考えをまとめ、その後友達のを聞くことを確認する。</li> <li>・相手と対等に勝負する気持ちがすごいことを理解させる。</li> <li>・困難があってもこつこつと努力を重ねたことが尊いことを理解させる。</li> <li>・「障害があってもこれだけできる」ということを伝えたかったことを理解させる。</li> <li>・「子どもひとりひとりの良さを引き出したい」と考えていることを理解させる。</li> <li>・まず自分の考えをまとめ、その後友達のを聞くことを確認する。</li> <li>・何事も挑戦せずにできるわけがなく、失敗してもやってみる価値があることを理解させる。</li> </ul>	<p>学習プリント</p>
5	○映像で定着をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画像が見つらい時は、内容を解説する。</li> </ul>	ビデオ
10	<p>○まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来について考える。</li> </ul>		学習プリント
	<p>発問④</p> <p>「あなたが、これから努力しなければならないことは何ですか」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の障害と向き合い、努力することの大切さを理解させる。</li> </ul>	

## 5 生徒の意見

- ①「高宮さんは、なぜ片腕でも教師をめざそうと思ったのでしょうか。」
- ・片手でもスポーツや仕事ができると教えたかったから。
  - ・親にがんばっている姿を見せたかった。
  - ・一生懸命やればできることを教えたかった。
  - ・自分も教えてもらったので、今度は人に教えたい。
- ②「あなたの苦手なことや不得意なことで、これから努力しなければならないことは何ですか。」
- ・あきらめないでやること。
  - ・目が見えにくくても勉強や部活はがんばらなければいけない。

## 高等部2年 道徳学習指導案

### 1 主題名 家族を大切にし、家庭生活を充実させる

視点：父母、祖父母への敬愛の念、家族の一員としての自覚

資料名 「家族にまつわる三行詩」（千葉県教育委員会『明日への扉』より）

「トイレの神様」（作詞：植村花菜・山田ひろし 作曲：植村花菜

歌手：植村花菜 2010年3月 キングレコード）

### 2 ねらい

- ・家族一人一人がかけがえのない存在であることに気づき、充実した家庭生活を送るために、家族の一員として温かな人間関係を築いていこうとする態度を育てる。
- ・自分を支えてくれる、大切な父母や祖父母に対する感謝と敬愛の念を養う。

### 3 主題設定の理由

内閣府では、子どもと子育てを応援する社会の実現にむけて、子育て家族やその家族を支える地域の大切さについて理解を深めてもらうために、平成19年度から毎年11月の第3日曜日を「家族の日」、その前後各1週間を「家族の週間」と定めた。この期間を中心として「子ども・子育て支援『家族の日』フォーラム」を全国で開催することで理解促進を図っている。「家族の日」のイベントについて学級で話題にしなが、家族とはどんな存在であるのかを生徒達へ問いかけ、自分の家族について考える機会とした。生徒自身が家族の一員であることを自覚し、充実した家庭生活を送るためのきっかけとしたい。

家族の形態が多様化しているなか、本学級の生徒にとって日常生活における祖母の存在が大きいが学習前の調査でわかった。本時に使用する『トイレの神様』は、歌手である作者の小学校3年生から23歳頃までの祖母との思い出に基づいて作られた曲である。植村花菜さんの成長とともに祖母との距離が徐々に開いていく。自分の成長に歩調を合わせて人生を歩いてくれた「おばあちゃん」がかけがえのない存在であったことを、失ってみて初めて実感する作者のせつない気持ちが歌詞やメロディからひしひしと伝わってくる。この曲を資料に使用することで、生徒にとって身近で大好きな「おばあちゃん」を通して家族の大切さについて考えていくことにした。曲を「聴く」だけでなく歌詞と一緒に「読む」ことで、家族への敬愛の気持ちを高めていきたいと考え本主題を設定した。

『トイレの神様』を効果的に利用するために、「家族にまつわる三行詩」を利用した学習を行う。文部科学省・日本PTA全国協議会の共催による「親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール」として三行詩の募集が行われた。優秀作品として選ばれたものが「明日への扉」～高等学校道徳読み物教材～（千葉県教育委員会）に掲載されている。小学生や中学生、社会人（高校生を含む）それぞれの立場から父母、兄弟への思いやエピソードが三行詩に綴られている。「家族にまつわる三行詩」は、朝のホームルームを利用して、一日数編ずつ紹介していく。生徒の思う家族観を三行詩をもとに迫っていく。主題のまとめとして、おばあちゃんを題材にした『トイレの神様』へとつなげていく。

4 展開 「トイレの神様」(おばあちゃんへの「ありがとう」を考えてみよう) より

	学習活動と主な発問	予想される反応	教師の支援
導 入 ( 8 )	1 「トイレの神様」の作者(花菜さん)と作品誕生の経緯を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名前は知っている。</li> <li>・聴いたことがある。</li> <li>・紅白歌合戦に出たよね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知っていることを聞き出して黒板に書き出す。</li> </ul>
展 開 ( 3 5 )	2 「トイレの神様」の歌詞を黙読する。  3 歌詞を見ながら「トイレの神様」を聴く。  4 聴き終わった後の感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌が上手だった。</li> <li>・長い曲だった。</li> <li>・作者はおばあちゃんのこと大好きだということがわかった。</li> <li>・恩返しができなかったことを後悔している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級だよりに「トイレの神様」の作者、曲の紹介と歌詞を掲載したものを配布する。</li> <li>・歌を聴く前に、頭の中で場面を思い浮かべることができるように、前半と後半の2枚に分けて、歌詞を1枚ずつ提示する。</li> <li>・個々に集中できるように生徒の正面には立たず、端や後ろから、聴いている表情や様子を確認する。</li> <li>・単語などのつぶやきもおおいに認め、黒板に記録していく。</li> <li>・発表ができない生徒には、印象に残った歌詞の部分を○で囲むように言葉をかける。</li> </ul>
展 開 ( 3 5 )	5 花菜さん(作者)とおばあちゃんの関係を表す歌詞から作者とおばあちゃんの気持ちを考える。 ★花菜さんとおばあちゃんとのエピソードから、花菜さん・おばあちゃんがお互いどんな気持ちだったのか、比べてみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつも一緒にいて楽しかった。</li> <li>・かわいい孫と出かけるのが楽しかった。</li> <li>・祖母と出かけて外でご飯を食べたことある。</li> <li>・おばあちゃんは、孫が家を離れて寂しかっただろう。</li> <li>・病気で弱っている自分を見られたくない。</li> <li>・もっともっとおばあちゃんと話したかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花菜さんとおばあちゃんの気持ちを対比できるように、表に整理しながら記録していく。</li> <li>・二人の間に違和感を感じられるようになった原因も併せて考えていくように言葉をかける。</li> <li>・生徒から歌詞に書かれたエピソードに似た行動を経験した発言があれば、さらに掘り下げてその時の生徒自身の心情を尋ねる。その時の家族の気持ちも一緒に考えさせる。</li> <li>・文章の「読み取り」学習にならないよう、おばあちゃんの気持ちは想像し</li> </ul>

○毎日お手伝いをして  
五目並べもした  
○買い物に出かけた時には  
二人で鴨なんば食べた  
○少し大人になった私は  
おばあちゃんとぶつかった  
○五目並べも鴨なんばも  
二人の間から消えてった  
○いつも味方してくれてた  
おばあちゃん残して



	<p>ひとりきり 家 離れた ○ちょっと話ただけだった のに「もう帰りー。」って 病室を出された</p> <p>6 花菜さんからおばあちゃんへの「ありがとう」を考える。 ★花菜さんがおばあちゃんへ「ありがとう」と伝えたいのは、どんなことだと思いますか。</p> <p>※作者役、おばあちゃん役を交代しながら「ありがとう」と声に出して伝えてみる。 (向かいあってあいさつする) ★伝える側、伝えられた側の気持ちはそれぞれどうでしたか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手なトイレ掃除をできるようにさせてくれたこと。</li> <li>・一緒に遊んでくれたこと。</li> <li>・照れくさい。</li> <li>・恥ずかしいけど嬉しかった。</li> <li>・緊張した。</li> </ul>	<p>つつ、生徒が花菜さんとなり、自分の気持ちとして考えるように言葉をかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞の最後に注目させる。全員で歌詞を読んでから発問する。</li> <li>・終末の学習場面に入る前に、「ありがとう」という言葉のもつ効力をお互いに感じられるようにする。</li> <li>・自分の家族に伝えたら？逆の立場であったら？などと尋ね、登場人物に心情を重ね合わせられるようにする。</li> </ul>
<p>終末 (7)</p>	<p>7 今日の授業をふり返り、自分の家族におきかえて考える。 ★自分の家族への「ありがとう」を考えてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつもご飯を作ってくれてありがとう。</li> <li>・病気をしたときに心配してくれてありがとう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記が可能な生徒は、自筆でワークシートに記録する。自筆が難しい生徒には、発言を教員が聞き取って書く。</li> </ul>

## 5 他の教育活動との関連

### ○保健体育

「自分や他者の命を大切にしよう」

私たちは、母親の胎内で大切に育てられ生まれてきたことを、映像や妊婦の話などから知る。家庭をもつためには、経済的、身体的、社会的、精神的などの面で自立し、自分や他者の命を大切にできなければならないという、社会の現実を理解する。

### ○家庭基礎

「生涯発達と家族」

家族の分類や機能の変化など、家族に関する社会問題についての理解を深め、男女が協力して家庭を築くことの意義と、家族や家庭生活のあり方について考える。

「高齢者の生活と福祉」

加齢にともなう一般的な変化や、高齢者の生活の様子、高齢者が抱える課題などについて理解し、高齢者を支える社会のしくみやあり方について考える。

## <授業の記録>

学習中の生徒の発言（挙手、あるいは指導者の指名による発言）

(1) 「家族」って何だろう（「家族の週間」の開始） 11/11（月）S.H.R  
あなたにとって「家族」とは、どんな存在ですか？

- いろいろな人の中で、自分にとって家族が一番多くの時間かかわりをもつ人。
- お母さん、女の人。お掃除、洗い物、洗濯をする。ぼくにご飯を作ってくれる人。ぼくの面倒を見てくれる人。よく怒られる。
- 自分にとって大切なもの。一人じゃできないことをやってもらったり、協力して何かを一緒にやったりする。
- 家族の誰が欠けても困る。弟がいなかったら、家の中が寂しくなる。
- お母さんも、（一緒に住んでいないけど）おばあちゃんも。優しいおばあちゃん。

(2) 家族にまつわる三行詩を読んでみよう（詩にこめた作者の思い） 11/12（火）S.H.R  
13（水）S.H.R  
三行詩を読んで感じたことを自由に発表しましょう。  
あわせて作者の想いを想像してみましょう。

「泥だらけのユニフォームと 空っぽのお弁当箱 これが母への「ありがとう」

- 泥だらけになっても、次の日また存分に練習を頑張ることができるように（ユニフォームを）きれいになって使えることへの喜び。
- 空っぽになったことはおいしかったということ。全部食べたことは、お母さんへのありがとうの気持ち。

「いつも口うるさいお母さん だけど内緒で数えてたら 優しい方が多かった」

- 時々細かなことで注意されることがイヤだなあと感じてしまうときもある。
- お母さんは優しい。いろんなところに連れていってくれる。

「家庭菜園 似てます なぜか うちの子に 不揃いだけど 味がある」

- 全く同じ人はいない。一人一人みな違うし、違っていいと思う。

「そっと頭をなでる母の手が やさしくて 寝たふりをする」

- （お母さんに）頭をなでてもらったことは覚えていないが、なでてもらうと嬉しい。

「母の作るお弁当 残さず食べるが私のルール 苦手な野菜が必ず一つ 母の想いにごちそうさま」

- 嫌いなものが入っていたら、そのまま残して返してしまうかもしれない。でも苦手を克服してほしいというお母さんの願いなのだろうと思う。

「ちょっとのがまんは？「幸せの素」みんなの笑顔は「元気の素」あいさつは？「仲良しの素」

- 家族だからこそ、（お互いに）ちょっとの我慢がないと幸せはないのではないか。

「兄ちゃんが東京にひっこした。ごはんの時の席が、自由になった。うれしいはずなのになぜかさびしい。」

- 家族がいたから（揃っていたから）席が決まっていた。空いた席を見て、ぽっかりと穴が空いたように寂しいと思う。

(3) 家族にまつわる三行詩を読んでみよう（心に響く一編を選ぶ） 11/14（木）S.H.R  
あなたの心に響いた一編を選び、それに対する感想を発表しましょう。

「ちょっとのがまんは？「幸せの素」みんなの笑顔は「元気の素」あいさつは？「仲良しの素」

- 普段の何気ない言葉で作られていて、小さい子から大人まで、家族の誰もがこれらの何か一つ

は守れるのではないかという想い。

「泥だらけのユニフォームと 空っぽのお弁当箱 これが母への「ありがとう」

○お弁当を空っぽにしたい。ぼくも残さず食べたい。お家の（お母さんが作った）ご飯も残さず食べる。

(4)「トイレの神様」(おばあちゃんへの「ありがとう」を考えてみよう)

11/15 (金) 1校時 (本時)

①「トイレの神様」を聴いたり、歌詞を読んだりして思ったことを自由に発表しましょう。

○作者のおばあさんにとって、何でもできるように、苦手を少しでもなくしてほしい、とトイレ掃除が苦手なかなさんに、苦手を少しでもなくしてあげようとしてくれた。

○おばあちゃんが優しく、と思った。

○トイレが出てくるので、楽しいのかなと思った。

○自分のおばあちゃんは健在だが、ひいおばあちゃんが病室以外で亡くなったが、(当時は) 亡くなったことが信じられなかった。寝たきりだったけど、いつも自分のことを「○○○(生徒の名前)」って声をかけてくれた(ことが忘れられない)。(→目を真っ赤にしながら話していた)

②作者とおばあちゃんとの思い出のエピソードから、作者・おばあちゃんがそれぞれどんな気持ちだったのか、考えて比べてみましょう。

作者(かなさん)の気持ち	エピソード	おばあちゃんの気持ち
毎日おばあちゃんと会えるのが楽しい。嬉しい。	毎日お手伝いをした。 五目並べもした。	孫が来てくれるのは嬉しいなあと思っている。
きれいになれるんだったらトイレを掃除しよう。	トイレを掃除すると べっぴんさんになれるよ。	トイレ掃除が苦手なかなさんに、すすんでやって苦手を克服してほしい。
嬉しい。 いつも楽しみにしていた。	買い物に行って2人で 鴨なんばを食べた。	食事を賑やかに食べることができてうれしい。少しでも孫と会えるならば、ご飯でも食べに行きたい。 ※1
約束したのに…。 普通に怒ってしまった。	新喜劇を取りそこねて おばあちゃんをせめた	忘れちゃった…。孫の期待に応えなかったのに。
反抗期。 いちいち頭にきてしまう時期なんだと思う。	少し大人になって おばあちゃんと ぶつかった。	幼少の頃は素直。かわいかったのに。いろいろ反発してくるけど、おばあちゃんかなさんを受け止め、心がおおらかなのでは。
おばあちゃんと一緒より、友達などと一緒にいる方が多く、楽しかった。	五目並べも 鴨なんばも 二人の間から 消えていった。	成長するにつれ、私と過ごすよりも友達といた方がいいんだろうなあ。離れていくのを感じるけど、でもまた一緒に過ごしたいなあ。
遠く離れたけど、実はおばあちゃんと一緒にいたいのかな。今までは近いからいつかは会えると思っていたけど。おばあちゃんのは、心の片隅にはあったと思う。	おばあちゃんをおいて 一人 家を離れた。	孫の決心を応援したい。 でも、寂しい。
体調の悪いおばあちゃんに対して、	「ただいま」	つらく、苦しんでいる姿は孫に見せ

昔仲良くしていた頃を思い出させようとしている。いい思い出のまま関係を取り戻したい。もっと話したかった。	ちょっと話ただけで「もう帰り」と言われた。	たくない。 2年ぐらいたって、(孫の)立派な姿を見られて嬉しかった。
---	-----------------------	---------------------------------------

※1 おばあちゃんと二人で買い物に行ったことを思い出した。

(自転車を買う時。昔は自分が連れられての買い物だったが、高校生になって自分が頼りにされての買い物だったのを思い出す。)

③作者がおばあちゃんへ「ありがとう」と伝えたいのは、どんなことだと思いますか。

④あなたの家族への「ありがとう」を考えてみましょう。

③かなさんからおばあちゃんへ「ありがとう」と伝えたいこと

→仲良くなったり、ぶつかったり、といろいろあったけど、おおらかな心で文句言わず見守ってくれたこと。

④わたしの家族への「ありがとう」

(わたしからおばあちゃんへ) →めんどろをみてくれてありがとう。

→いろんな知恵など、教えてくれてありがとう。

(わたしからお母さんへ) →ご飯を作ってくれてありがとう。

→育ててくれた感謝の気持ちを伝えたい。

### 3 本事例の活用に関する留意点

#### (1) 曲を教材として使用すること

道徳の授業においては、読み物教材を使用することが多い。それは文章を読んで頭の中で場面を作ることが大切だからである。生徒の読解力の実態によっては、読んでイメージするよりも、指導者による範読やストーリー性のある音楽を聴くことの方が効果的なこともある。曲を教材として使用する場合には、年度はじめの学級のオリエンテーションなどの時点で生徒の音楽への興味・関心の度合いを予め確かめておき、主題にそった曲を選定することが必要である。『トイレの神様』にはアニメーション化された映像もあったが、生徒自身が場面を想像できるようにするため、あえて曲にこだわった。文字からだけでは読み取りにくい作者の気持ちが、曲のメロディーラインや、歌手の息づかいなどに助けられて感じることも期待される。

#### (2) S.H.Rの時間を活用すること

本事例の「家族の週間」のように、一定の期間に集中して推進、啓発することを目的に設けてあるような行事やイベントを学習で扱う場合には、単発の授業ではなく、生徒達に一定の期間継続した意識付けを行うために、連続した学習の場を設定することも考えなければならない。そこで、週日課の中で、帯状で設定されている朝のホームルームの時間に注目した。

本来朝のショートホームルームでは、今日の予定、健康観察、連絡が中心だが、その他各学級で風習や時候にふれたり、1分間スピーチなどを取り入れたりして、学校生活が始まる朝の貴重な10分間を過ごす。

本事例では、今週のトピックスとして「家族の週間」を取り上げ、毎日ふれていくことにした。当然貴重な10分間をそれだけに費やすわけにはいかないため、学級だよりや朝黑板(本学級では、通常一日一句ことわざや故事成語などの紹介として活用)などを有意義に活用して、10分プラスαの効果을期待して、連続した学習を行うようにした。

(参考 本主題に関する指導計画 より)

日時		学習内容	使用教材
11/11 (月)	S.H.R (10分)	「家族」って何だろう？ (「家族の週間」の開始)	「あくしゅ」第71号 ※2 家族について考える 1 ～「家族の日」「家族の週間」～
11/12 (火)	S.H.R (10分)	「家族にまつわる三行詩」を 読んでみよう① (詩にこめた作者の思い)	「あくしゅ」第72号 家族について考える 2 ～家族にまつわる三行詩①～
11/13 (水)	S.H.R (10分)	「家族にまつわる三行詩」を 読んでみよう② (詩にこめた作者の思い)	
11/14 (木)	S.H.R (10分)	「家族にまつわる三行詩」を 読んでみよう③ (心に響く一編を選ぶ)	
11/15 (金)	1校時 (50分)  <b>本時</b>	「トイレの神様」 (おばあちゃんへの 「ありがとう」を考えてみよう)	「あくしゅ」第74号 家族について考える 4 ～トイレの神様 前編～ 「あくしゅ」第75号 家族について考える 5 ～トイレの神様 後編～ 「トイレの神様」(音楽CD)

### (3) 生徒の発言を引き出すこと

生徒一人一人の考えや意見を、ワークシートに書いて発表する形式が多いが、肢体不自由により筆記が困難な場合、書くことに勢力を注ぎ、意見交換が深まる前に終わってしまうこともある。発言でのやりとりの方が形式にとらわれずに思いを引き出しやすいので、生徒の発言やつぶやきを教員がそのまま黒板に記録していく。授業の開始から終了までの生徒の発言が、黒板や掲示物に残しておくように板書計画を立てる。事前に短冊などで引き出したい発言を用意しておくことは、教員の思う答えを誘導してしまいやすいので、できるだけその場で生徒自身の表現のまま板書していった方がよい。

### (4) 生徒の家族構成や家庭環境への配慮に関すること

本事例では、家族がテーマであることから、各生徒の家族構成に配慮する必要がある。今回は生徒全員の祖母が健在であることから「おばあちゃん」をピックアップしてみた。生徒によっては両親が死別、離別などにより片親であることや、兄弟の有無なども話題によっては十分配慮しなければならない。家庭不和や虐待などが心配される生徒がいる場合には、家庭に限定せず広く社会の一員としての自覚をテーマにするなどの配慮が必要である。

### (5) 学級だよりを活用すること

本学級では、週2回以上のペースで学級だより「あくしゅ」を発行している。学校での学習や生活の様子を家庭に発信すると同時に、生徒達への自作学習教材として使用することで学習後の振り返りや家庭への話題提供の一手段として活用している。本事例においては、3-(2)で述べたように朝のショートホームルームにおける短時間の学習の補助教材としての役割をもたせた。生徒の登校前に机上に配布しておき、ホームルーム開始までのわずかな時間ではあるが、登校後各自が一読しておくことでこの日の朝の学習における見通しをもつことができる。

